

2021年5月31日

署名要望事項2.「2050年石炭火力ゼロ」に関する修正

生活クラブ「未来につなげる♪エネルギーアクション」実行委員会

生活クラブで展開している「未来につなげる♪エネルギーアクション」は、今年度の国のエネルギー基本計画に対するアクションとして、2030年エネルギーミックスの再エネ目標を大きく引き上げて60%以上にすること、原発、石炭火力の廃止を提案しています。

6月10日に開催予定の「G7直前全国アクションー署名共同提出・記者会見」で、共催団体の「あと4年、未来を守るのは今キャンペーン」・「フライデーズ・フォー・フューチャー」とともに足並みを揃えて脱原発・脱石炭を求めアピールするために、生活クラブで取り組んでいる署名の要望事項2.「巨大なリスクを抱える原子力発電は即刻廃止し、石炭火力発電は段階的に縮小し2050年までに廃止すること」について、以下4)赤字部分の通り修正します。

- 1)生活クラブはIPCCの1.5℃特別報告書にもとづき気候変動の深刻な影響を回避するためには、「2030年の再生可能エネルギー電力目標を60%以上に、2050年は100%を求めます」という高い目標を提案しています。2050年の電力目標は再生可能エネルギー100%としており、このことはイコール、原子力発電も火力発電(石炭火力発電と石油による発電ならび天然ガス発電)もゼロとすることです。
- 2)また政府が出している「グリーン成長戦略」によるCCS(CO₂の回収・貯留)付きの火力発電、再生可能エネルギーによらない水素やアンモニア利用にも反対しております。エネルギーの効率化と共に再生可能エネルギーの大幅な拡大をいち早く進めることを提案しています。
- 3)原子力発電や化石燃料による発電所を生かしていく仕組みである「容量市場」と「非化石市場」の即刻、廃止も意見として提案しています。
- 4)生活クラブ連合会は、「石炭火力は、2030年までにはすべての運用を廃止にするべき」とする意見を含む意見書を4月16日付で「国のエネルギー政策に関する意見箱」へ提出しました。署名の要望項目2.との齟齬が生じたこととお詫びします。署名の要望項目2.の真意は、2050年はすべての火力発電ゼロという意味で、石炭火力は2030年運用廃止(国が推進する高効率石炭火力や日本の石炭火力の輸出政策を批判)が意見ですので、署名提出時に「~~2050年~~」を「2030年」に訂正のうえ国に要望することにします。

以上